

ホームクリニックえにし

言語聴覚士(ST)のリハビリ内容についてのご案内

普段何気なく食事や会話をしていたのに、病気の影響でその当たり前が叶わなくなる方がいらっしゃいます。
何気ないことは、できなくなってみるとその大切さがわかります。
言語聴覚士は「話す」「食べる」といった日常の当たり前を少しでも取り戻すためにリハビリ支援を行います。

STリハビリ対象の方

このような方、
いませんか？

脳卒中を
発症してから
話せなくなった

会話の内容が
かみ合わない
ことが増えた

文章の読み書き
が難しくなった

呂律(ろれつ)が
回らず、ことばが
聞き取りにくい



バスや電車に
お一人で乗ること
が不安である

食事やお茶で
よくむせている

誤嚥性肺炎を
繰り返している

お金の計算や
支払いができない

STリハビリ内容

障害名とその症状	リハビリ内容
<p>「話す・聞く・文字を読む・文字を書く」ことが脳の損傷により難しくなることを失語症といいます。</p> <p>具体的には ・言いたい言葉が浮かんでこない ・思ったことと違う言葉を口にしてしまう ・同じ言葉が言えたり言えなかったり など様々な症状</p>	<p>ひとくちに失語症といってもその症状は人により異なります。 ひとり一人に合わせた目標を立てます。</p> <p>例 ・挨拶をする ・ニュースや新聞を理解する ・ケータイやパソコンの練習 など</p> 
<p>麻痺の影響で呂律(ろれつ)が回らず、ことばがはっきりといえない、ことばが相手に伝わらないことを運動性構音障害といいます。</p>	<p>口腔器官の筋トレをおこない、呂律の回りやすさや、聞こえやすい話し方の習得を目指します。</p>
<p>高次脳機能障害は脳損傷が原因で、 ・記憶が悪くなる ・注意散漫になる ・怒りやすくなる ・段取りが悪くなる など様々な症状が出現します。</p> <p>外見からは分かりにくく、実際の生活や社会に戻って問題が顕在化する場合があります。</p>	<p>左記のように様々な症状があり、その症状は人により異なります。 ひとり一人の生活に必要な練習や代償手段を考えます。</p> <p>例 ・馴染みのスーパーに買い物に行ってお金の支払い練習 ・バスや電車に乗る練習 など</p> 
<p>食事中の一連の動作において障害が生じて、食べるのが難しくなることを嚥下障害といいます。</p>	<p>食事に必要な筋肉のトレーニングをおこなったり、実際に食べ物を飲み込むことで訓練をおこないます。</p>

訪問リハビリ 対応エリア

○練馬区全域

○中野区・板橋区・杉並区・和光市・朝霞市・新座市・西東京市・武蔵野市
上記の一部地域

※上記の範囲外でもご相談ください

